ZOOM UP CAMERA EYES

ズーム・アップ・カメラ・アイズ

北淡震災記念公園・野島断層保存館

（兵庫県淡路市）

Consultant 会誌編集専門委員会

1995（平成7）年1月17日早朝、淡路島北部・明石海峡付近の深さ16kmを震源にマグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生。気象庁が震度階級に震度7を導入してから初めて、最大震度7が神戸市街地から淡路島北部にかけて記録され、阪神地方から淡路島一帯を中心に阪神・淡路大震災が引き起こされた。

この地震により、震源に近い淡路島北部の北淡町（ほくだんちょう）～一宮町（いずれも現淡路市）の延長約10kmにかけて、北東から南西方向に断層活動が断続的に地表まで達し、断層によって段違いになった田畑や、断層の真横にもかかわらず倒壊しなかった家屋など、当時テレビなどによって、全国にその状況が知られた。

当該断層は野島断層と呼ばれる横ずれ成分をもった逆断層で、淡路島北部から大阪府北部に位置する六甲・淡路島断層帯の構成断層の一つとなっており、最も震源に近い断層のひとつであった。兵庫県南部地震では、北淡町野島平林付近で約150mにわたり最大で水平方向210cm、上下方向120cmのずれが生じた。

北淡町小倉地区では、貴重な震災遺構として、震災直後よりこの断層を風化させないようにシートなどで保全が試みられ、道路や畑の畔、生け垣のズレなどの断層による様々な地形・地物の変化が保たれた。そのうちの延長約140mに渡って建物で覆って、地表に現れた野島断層を恒久的に保存する野島断層保存館が整備された。様々な角度から断層をわかりやすく解説するとともに、阪神淡路大震災を語り継ぎ、将来起こりうる大地震への備えの大切さを考えさせる施設として、周辺も北淡震災記念公園として整備され、1998（平成10）年4月より公開された。

野島断層保存館内では、地割れや雁行状の陥没など地表面で見られる断層地形とともに、地面を掘り下げて断層の断面を詳しく観察できるトレンチ展示がされている。破壊された道路が大きく折れ曲がって分断された側溝や、畑の畔、水路、生け垣もそのままの状態で保存されている。トレンチ箇所など、一部は樹脂などで固定している場所はあるものの、大部分は当時の畑や道路がそのまま屋根で覆われている。地表面の断層地形が、乾燥によって風化や破壊することを防ぐため、表面の湿度管理や、雑草の除去などが必要となっているが、野島断層は、国の天然記念物にも指定されていることから、改変を行わないように細心の注意で保存・維持活動が行われている。

破壊された道路

トレンチ部からの野島断層

また、保存館の並びには、野島断層が敷地内を横切りながら倒壊せずに現存した民家を、メモリアルハウスとして保存・公開している。メモリアルハウスでは、断層は建物のすぐ脇を通り、断層箇所でコンクリートの塀が割れ、庭の花壇も大きくずれて折れている。建物の基礎は元の位置から約20cm持ちあがり横に約120cm動き、地盤も傾いたため建物全体が傾きながらも鉄筋コンクリート造りでしっかり作られていたことから、建物自体の歪みや壁と柱の隙間もほとんどなく震災後も数年間、住人が生活していたという。公開されている建物内の台所では、地震発生直後の状況が再現されており、地震の揺れの強さを今に伝えている。

メモリアルハウス内に復元された震災直後の様子

震災記念公園では、語り部活動にも力を入れている。職員や被災者が、震災を風化させないため、また自らの経験を未来に活かせるようにと活動を積極的に続けており、時に出張講演も行っている。実際、入館者自体は近年横ばいであるが、語り部の依頼は年々増加傾向にあるという。

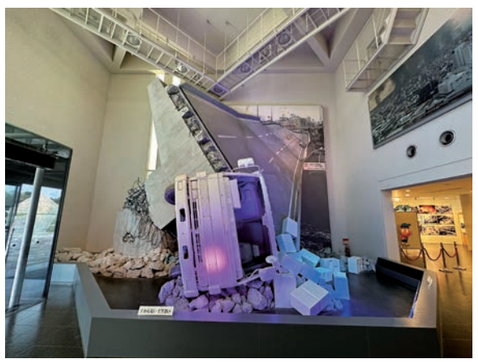
2025（令和7）年は、震災から30年を迎える。この間にも東日本大震災があり、また近い将来の東南海・南海地震の発生も懸念されている。震災を風化させずに、またその経験を未来に活かすために、この公園が存在し続ける意義は大きい。

＜参考資料＞
1）「野島断層ー大地が動いた」北淡震災記念公園、1998
2）「北淡震災記念公園ホームページ」https://www.nojima-danso.co.jp/

＜取材協力・資料提供＞
北淡震災記念公園野島断層保存館

＜写真提供＞
P42下左写真：北淡震災記念公園
P42下右、P43上左、P43中、P43下左写真：髙見元久
P43上右写真：本田悠稀実
P43下右写真：松田明浩

震災記念公園全景


野島断層保存館エントランス

断層によって割れた塀と花壇のずれ

鎮魂のモニュメント（べっちゃないロック）
※「べっちゃない」とは大丈夫だ、別条ないという意味の淡路島の方言